

中米・パナマ共和国とパナマ日本人学校

帯広市立稲田小学校

教諭 笠松真一郎

1. パナマ共和国の概要

正式国名	パナマ共和国(Republica de Panamá)	
首都	パナマシティー(Ciudad de Panamá)	
独立記念日	1903年11月3日(コロンビアより)	
政治形態	立憲民主共和制	
人口	約277万人(2000年国勢調査)	
国土面積	75,517?	
公用語	スペイン語	
民族構成	メスティソ 70% 黒人 14% ヨーロッパ系 10% アメリカ先住民 6% .	
国内総生産	91億4380万ドル(1998年)	
通貨	バルボア(米\$と等価・硬貨のみ)	



(1) 自然

パナマ共和国は北米大陸と南米大陸を結ぶ状態で細長く湾曲した地形で、その広さは7万5517?、北海道よりもやや小さい位の面積である。平地部分が少なく大部分が高度900~1500mの丘陵地帯と、高温多湿の亜熱帯地帯である。気温は山岳地帯を別として、パナマシティで概ね昼は30度~35度、夜は25度~30度程度。雨季は5~12月、乾季は1~4月である。雨季と言ってもただらと雨が降り続くのではなく、毎日1~2時間激しいスコールが降り、すぐに晴れ上がり、乾季になるとほとんど雨は降らない。亜熱帯から熱帯に位置しているため、平均雨量も太平洋側で年2000mmにもなり、湿度も年間を通して70~80%以上となる。カリブ海側では所によって5000mmを越える場所もある。したがって、雨季は特にカビが生えやすい状態で、在留邦人の中には身体にカビが生えた人もいた。

(2) 歴史

パナマの歴史はそう古くはなく、パナマの「開祖」といわれているスペイン人バルボアが、アメリカ大陸で初めての植民都市ダリエン市を、カリブ海沿いに建設したのが1510年。バルボアはその後地狭を横断し、新しい海「太平洋」を発見したのが1519年、そこに新しい港町を建設したが、それがパナマシティの始まりである。

「Panamá」とはインディヘナの言葉で「魚の豊富な」という意味だと言われている。また、バルボアの名は現在でもパナマ共和国の通貨の単位としてその名が使われている。

パナマが欧州人に発見されて以来、常に注目されてきたのは、ここが二つの海、即ち「太平洋」と「大西洋」を結ぶ最短の陸路コースであるという点である。特に 1848 年に米国



がカリフォルニアを手に入れ、金鉱山が発見されると、米国東南部や欧州から多くの人間がこのパナマ地狭を横断することになり、1855 年には大西洋岸のコロンから太平洋岸のパナマ間 80 数キロに鉄道が敷かれるまでになった。その後、1878 年、フランス人レセップスがスエズ運河に続いて、パナマ地狭に運河を掘ろうと工事に着手した。当時パナマはスペインから独立し、コロンビア国の一部となっていたが、その後 1914 年、アメリカの手によってパナマ運河が完成するまでは、俗に言う「パナマの歴史はパナマ運河の歴史である」の通り、様々の体験をするようになる。完成後も、もちろんパナマは「運河」と切っても切れない関係にある。

(3) 社会

パナマの人口は約 277 万人、人種的には黒人系のほか、インディヘナと白人の混血である人々（メスティーソ）が主体。産業は国内総生産の約 80%が銀行業、商業等のサービス産業であり、農業ではバナナ、コーヒー等を作り、漁業ではエビ等が中心、工業は食品加工業等もある。

パナマの特色としては、フリーゾーンがあり、中南米における物流の拠点であること、パナマ運河があり、世界の交通の要所であることである。また、米ドル紙幣がそのまま流通しており、金融センターがあること、会社の設立が容易であること等、中南米の他の国にない多くの特色がある。また、1999 年 12 月 31 日には米国よりパナマ運河の管理権が引き渡され、同時に米軍も撤退。パナマ運河のいわゆる代替案調査が我が国及び米国の協力により進められ、「第三閘門(大型船舶用の水路)増設」という調査結果が出されている。

パナマは 1986 年以来軍政が続き、トリホス将軍の後を継いでノリエガ将軍が実権を握ったが、特に 87 年以降政情不安となり、米国による対パナマ経済封鎖が 88 年から実施され、経済も衰退。89 年 12 月の米軍侵攻の結果、ノリエガ将軍が米軍により逮捕され、同時にエンダラ政権が発足し、民政が復活した。この結果、現在政治的には民主主義、言論の自由が回復されている。経済も回復しつつあるが、まだ 87 年当時の水準には達せず、失業率は依然高く、国民の貧困状態は改善されていない。また、2000 年 9 月には初の女性の大統領が誕生した。

(4) 文化

言語 公用語はスペイン語。英語を理解するものの割合は他の中米諸国と比べて高いといわれているが、さほどでもない。先住民インディヘナは各部族により独自の言語を有しているが、これら少数民族に対するスペイン語教育が普及している。

宗教 カトリック 80%、プロテスタント 15%、その他 5%、社会慣習へのカトリックの影響が非常に強い。

生活、習慣 パナマの家庭生活は、スペイン的な伝統に基づいているものが多く、大半の家庭では母親の責任は家庭に有り、家族との関係が中心。父親は家庭外で仕事に従事し、家長としての存在感がる。

2. 日本とのつながり

(1) 交流史

パナマが共和国として独立したのは1903年であり、従って我が国との関係も古いものは特に無いが、パナマが未だコロンビアの地峡州であった時代、パナマ鉄道の完成から間もない1860年4月25日、江戸幕府派遣の万延元年遣米使節（日米和親条約等の批准）一行78人（正使・新見豊前守正興）が日本人では始めて汽車に乗っている。これは公式には日本人が始めて鉄道に乗った地がパナマであったということになる。



また、その後パナマ運河建設期には日本人技師・青山士がカリブ海側ガツン・ロックの設計に関わっていた。（彼は帰国後、内務省の技官となり、荒川放水路の建設などに貢献した）その後約半世紀の間に極僅かながら、この地に移住、定着する日本人がおり、第二次大戦前には、その数は約300名に達した。多くの者は小売業、床屋等の職業に従事していたが第二次大戦の勃発により、日本人はすべて敵国人とされ米軍の捕虜収容所に収容された後、米国移送され、その後日本に帰国した。

3. パナマ日本人学校

パナマ日本人学校は、パナマ市内の高級住宅街(marbella)マルベージャ地区に位置している。かつては校舎から太平洋を望むことができたが、現在は高層マンション等に囲まれている。昭和55年5月には二階校舎の増築、次いで6月にはプールが完工する等、児童・生徒数(36名 派遣初年度入学式)が日常の教育活動を行うのに不自由ない施設・設備となっている。



(1) 名称等

学校名	パナマ日本人学校 Escuela Japonesa de Panamá
設立	1974年(昭和49年)10月12日
設置者	パナマ日本人会
地位	パナマ文部省認可国際学校(1984年9月26日付)
運営主体	パナマ日本人会学校運営委員会
派遣教員	10名
現地採用講師	5名(スペイン語4名, 英語1名)
現地採用職員	5名(運転手3名, 秘書・用務員各1名)

主なあゆみ

- 1972年度
日本人学校設立を日本人会総会で可決
- 1973年度
日本人学校設立準備委員会開催
日本語補習教室開始
日本人学校設立認可の内定
- 1974年度
校舎建築着工
パナマ日本人学校開校式
- 1975年度
高校入学資格文部大臣指定校認可
- 1976年
電話開設・スクールバス運行開始
- 1980年
校舎増築・プール設置
- 1984年
国際学校としてパナマ文部省から認可
- 1997年
文部省教育研究校の指定



- (2) 学校教育目標
豊かで調和のとれた人間性をもち、国際感覚を身につけた心身ともに健康な児童生徒を育てる



(3) 学校経営方針

「まずは子ども在りき」を基本
子どもを中心として、「子どものために」
を第一に考えた日々の教育活動を進める

豊かな心を持った
子どもの育成

確かな学力の定着

特色ある学校づくり

開かれた学校づくり

- ・各種体験活動の重視(社会奉仕活動・自然体験活動・校外学習等)
- ・小・中併設校の持つ良さを生かした縦割り集団での活動の一層の活発化と児童生徒の自主性を育む児童生徒会活動の更なる推進
- ・子どもが主役となり、達成感、成就感が感じられる学校行事の一層の充実と精選
- ・国際感覚豊かな子どもを育成するための国際理解教育の推進

- ・学力の定着を保障する授業時数の確保と授業の充実
- ・基礎基本の定着を図る学習指導法の展開と問題解決型学習の積極的導入
- ・少人数学級の利点を生かした個別指導の徹底と教科担当制の拡大
- ・進路指導の充実と目的意識的な学習への援助指導
- ・学習指導方法充実のための校内研究の活性化と自主的研修活動の奨励

- ・ノーチャイム(チャイムの鳴らない学校)
- ・語学教育の重視(週2時間のスペイン語、週1時間の英会話、英語検定の活用)
- ・体力・気力の養成(週1時間の水泳、業間、昼休み、放課後を使った体力作り)
- ・情報教育の充実(校内LANの整備、インターネット接続、PCを活用した授業)
- ・師弟同行の教育の推進(遊び・清掃・学習等)

- ・参観授業、公開授業などでの授業内容の積極的公開
- ・個別懇談、学級懇談等での保護者との相互理解の推進の一層の推進
- ・保護者との直接対話の機会の拡大
- ・在留邦人の学校教育への人材活用
- ・各種広報活動の活発化(「学校便り」「校長通信」「ホームページ」等の充実)
- ・学校施設の積極的開放体験入学生の積極的受入

(5) 年間行事

平成14年度の学校行事

月	行事	月	行事	月	行事	月	行事
四月	入学式・始業式・身体測定 避難訓練(地震と火災) 1年生を迎える会(小・中) 参観懇談週間 前期児童生徒役員改選	七月	ハリス校交流学習 個人面談週間 自衛隊見学 七夕集会 期末テスト	十月	児童生徒役員改選 中間テスト 小学習会 小6修学旅行 校内水泳大会 スペイン語公開 エビスコV校交流学習 後期児童生徒総会 後期クラブ・委員会開始	一月	始業式・身体測定 中学能力テスト 避難訓練(暴風雨想定) 中学修学旅行 移転教室 書初め会 もちつき会 日本人会 運動会
五月	全校参観 避難訓練(登下校時の非常事態) こいのぼり集会 児童生徒総会 前期クラブ、委員会開始 スペイン語公開 写生会 中間テスト	八月	始業式・身体測定 中学能力テスト 避難訓練(火災) ハリス校交流学習 職員交流/V校	十一月	個人面談週間 全校一日参観日 小6修学旅行 先輩と学ぶ スペイン語公開 期末テスト	二月	中学修学旅行 豆まき集会 小学部高学年 学級懇談週間 新一年生一日入学(小・中各々) たこあげ会 スペイン語公開・期末テスト 6年生を送る会
六月	土曜参観 エビスコV校交流学習 児童生徒総会 水泳大会 スペイン語公開 先輩と学ぶ	九月	納涼祭 日本人会 職員交流エビスコV校 学習発表会 学習発表会(保護者参観日) スペイン語公開 国会議員参観(記念撮影)	十二月	中3年生を送る会 音楽鑑賞会 二期参観式 中3年生を送る式(卒業)	三月	卒業式 卒業式 送る会 離別式

表以外にも児童生徒会の行事や、日本から賓客があった場合には講演会や迎える会などを急遽行事を組む。
(例：常陸宮殿下、宇宙飛行士の秋山さん、国会議員団)

平成14年度の校外学習

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	中学部
回数	14	20	14	8	4	3	4

低学年は生活科、小学部3年以上は社会科や理科を中心に計画

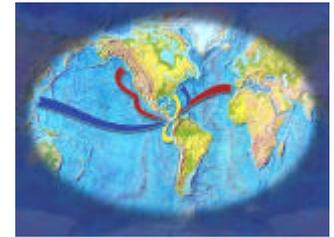
4. パナマ日本人学校の現地理理解教育

現地理理解教育として、昭和 58 年度より「生きたパナマを知ろう」という主題のもと、交流学习・カリキュラム「パナマを知る」・社会科と理科の資料集・道徳の副読本などを活用した学習指導法の研究などを行ってきた。63 年度から、これらの実践をもとに、新たに「パナマの素顔を知る」という主題を設定し、パナマの「運河」「歴史」「文化」「自然」「教育」等の内容について研究を行ってきた。その後共同研究は、平成 9 年度から 11 年度までの 3 年間、文部省海外子女教育研究指定校として、「共存共生」をめざす子どもの育成 - 水や熱帯雨林を扱った横断的・総合的な環境教育を通して - を主題に掲げ取り組んできた。私の在任中は「自分の考えを持ち 豊かに表現する子の育成」をテーマに職員夫々がパナマに視点を当てた教材化に取り組み、「パナマを知り、パナマを愛する子ども」の育成を図ってきた。そこで、自身が派遣 2 年次に取り組んだ小学部 4 年生の実践を以下に紹介したい。

(1) 実践例

教科名・単元名

社会科「きょうどを拓く」 ～世界の十字路パナマ地峡～



単元観

パナマといえばパナマ運河であり、パナマの歴史はパナマ運河と共にあったと言ってもよいくらい、この国においての運河の存在は大変大きい。それはこの国の独立の経緯や、その後の経済活動からもわかることである。20 世紀最大の土木建築とも言われる、この「パナマ運河」を教材化し、児童に追及させることを通して、自分たちの住む「パナマ共和国」について一層理解を深め、認識を広げていくことが可能であると考え。本単元の学習を通して、「パナマを知り、パナマを愛する子ども」を育てていきたい。

本単元において個につけたい力

～自分の考えをもち、豊かに表現するために～

ア. 発想を転換し人間の営みに焦点化した教材化

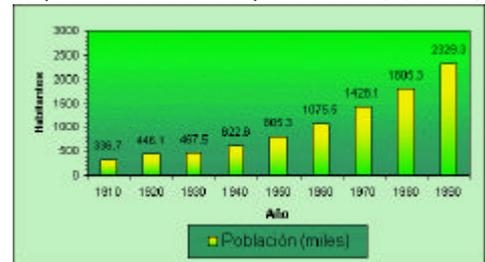
(ア) 地域の人々の営みを浮き彫りにする

今でこそパナマといえば、運河の国、物流の拠点

であり、交通の要衝として「世界の十字路」とも呼ばれてきた。そしてパナマシティは近代的な高層建築が建ち並び、金融の街としても知られている。この国に住んでいる我々はその恩恵を少なからず受け、さほど不便を感じることなく、さらには中南米で唯一水道水がそのまま飲めるほど便利な生活をする事ができる。しかし、運河建設以前やその当時は「黄熱病が蔓延し、マラリアの毒がしょうけつを極める」と言われた地であり、「神に見捨てられた地峡」「悪魔の地」とまで表現されていた。パナマ運河工事に関わった青山士氏も「気候は暑く不衛生地で蚊が物凄く・・・(中略)・・・よくも生きて帰れたものだ」と述懐している。そんな「悪魔の地」がフランスの教訓を生かした、アメリカによる世界最大の土木事業から通商・軍事の要衝としての地峡に生まれ変わり、わずか 90 年間の間にパナマ県は人口も 20 倍に膨れ上がるほど発展を続けてきた。

また、パナマ運河そのものは当時の最高の土木技術と人知の限りを尽くして作られた近代文明の所産であり、現在においても、いまだに建設当時の、そのままの姿でその役割を果たしている。しかし、近代文明の粋を結集して作られた運河は、自然の恵み(大量の雨と熱帯雨林)の上に成り立ち、自然と調和する形で機能しているとも言えるであろう。

さらに運河建設当時、雨の多いパナマの気候があらゆる面で人間に苦難を投げかけたが、人間は逆にその悪条件をうまく利用したことから、パナマ運河を素材とし、それを多角的に追求していくことから自然に働きかけてきた人々の営みを浮き彫りにし、先人の工夫や努力を理解させていきたい。また、本単元の学習を通して、地域の新たな発展を願う態度を育てていきたい。



(イ) 意外性や認識のズレを生む教材化

パナマが南北アメリカ大陸の中で最も狭い地峡であり、ここに運河を建設することの優位性は地図上からも容易に理解することができる。しかし、計画段階で大陸を横断する運河ルートは複数あり、一時はニカラグア・ルートの計画がアメリカ議会でも、かなり具体的に検討され、パナマ・ルートよりも優位だった時期もある。この事実は「児童の思いと社会とのズレ」を生み、素朴な疑問から自然な形で学習課題を追求させていけるものと考えた。



また、前述のように、今、さほど不便を感じることなく、マラリアや黄熱病等の心配をせずに暮らすことのできるパナマが、かつては「悪魔の地」と呼ばれるほど不衛生な場所であったことも児童にとっては意外なことであり、パナマそのものの学習に対する追求意欲を高めていくことができるであろう。

(ウ) 世界に広がる、問いの広がる教材化

今回学習を進めていく上で単元構成の中心となるパナマ運河は、それ自体が世界貿易を担っているものであり、世界各国の船が通過するのを目の前で見ることができる。また、本校からも30分程度で行けるといいう利点を生かし、実際にミラ・フローレスロックの見学を単元の中に位置付けることにより、子ども達に自分の目で世界への広がりを実感させることができるであろう。さらに、グラフ等の資料から日本のパナマ運河の利用率をつかませることからも、目の前を通る船や貨物が現在の自分たちの生活だけでなく、日本にいたころの生活や今後日本に帰国してからの生活にも大きな関わりがあることに気づかせていきたい。

また、パナマ運河を通る船から、その船の国籍、目的地、積み荷などを想像し、世界には様々な国があること、それらの国々はそれぞれ特色があり、人々の生活があることに思いをめぐらせることができる故、学習を終えた後も、問いが無限に広がる教材とも言えるであろう。

イ. 見方や考え方を高める学習展開

(ア) 視点の変換

運河建設におけるパナマ地峡の優位性は最も狭い地峡であること以外に、中南米地域に多く見られるような自然の災害が極めて少ないということもあげられる。人間の作り上げる科学文明も得てして自然の脅威の前には無力であったり、そのもろさをしばしば露呈する。パナマ運河もその点においては例外でなく、万が一大地震が周辺で起こった場合には大地に立脚する必然的な結果として安全な通行は望めない。さらに、船はその大小に関わらず、水に浮いた状態で、それ自身の推進力によって移動する。強力な推進力によってある程度のスピードがあれば安定した方向性を得ることができるが、スピードを下げた状態では強風などの影響を受けやすく、簡単に座礁してしまうという性質を持っている。

中南米においては殆どの国が度々火山活動による地震の被害を甚大に被っているが、偶然にもパナマはそのルートからうまく外れた位置に存在する。また、中米、カリブ諸国のみならず、アメリカ合衆国南部まで広がる、ハリケーンのルートからもパナマは外れ、この周辺では奇跡的とも言える「運河の立地条件」を備えている。本時の学習においては、運河の安全性をつかませた上で、視点を変え、日本においても度々地震や台風被害から生活が脅かされてきたことを想起させ、自分たちが今住んでるパナマが自然災害の極めて少ない、安全な地域であることをつかませ、パナマの良さに気づかせていきたい。

(イ) 追求内容の複線化

本時の学習では「児童と社会との認識のズレ」から生まれる課題を、追求活動の複線化により複数の角度から、児童自らの興味に合わせて選び、パナマの地理的な特色を探らせていく。前述のようにパナマ運河は様々な角度から追求できる素材であるが、教材としてはあまりにも大きな存在でもある。それ故、網羅的に扱うのではなく、可能な限り複数の資料、追求の切り口を用意し、児童個々の興味に合わせて追求活動を絞り込み、その子なりにパナマ運河の偉大さに迫らせていきたい。

(ウ) 体験活動，疑似体験の重視

4年生の発達段階では，未だ具体物や具体的な操作活動を大変好み，体験や活動を通して多くのことを学んでいく。そこで，本実践では，可能な限り見学・調査・体験など五感を使った活動を通して，自分たちの住んでいる地域や，そこに生きる人々の工夫や努力，営みに気づかせたいと考えた。パナマ運河そのものは，物凄く大きな巨大建造物であり，その役割も世界の流通・貿易を直接担う極めて大きな存在である。それ故児童にパナマ運河を広い視野から総合的に捕らえさせることは大変難しいことと言える。そこで，本単元の学習においては，パナマ運河の利点や構造等，可能な限り地図やCG，写真資料等を活用しながら理解させていきたい。また，パナマ運河ミラ・フローレスロックの見学では，その大きさ，運営や苦勞を自分の眼や耳を通して直接触れ，パナマ運河の偉大さを肌で感じ取らせたいと考えた。

(エ) 評価活動

これまで，社会科の学習を進める上で，事前調査と自己評価を支援の手立てのひとつとしてとらえてきた。本単元の学習についても，自分たちの住むパナマ共和国そしてパナマ運河についての事前調査を行い，その結果（児童の興味や認識の度合い）をふまえて，単元の学習や授業を構成してみた。

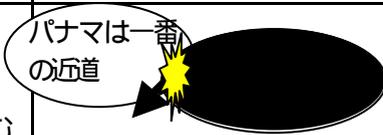
ウ．単元の指導計画及び本時の展開

学習過程	小単元名	児童の思考	主な学習内容・活動
事象との出会い (1)	オリエンテーション (1)	パナマってどんな国	パナマについての事前調査及び，パナマ共和国の歴史について学習する意欲を持つ
【追求1】 スペイン統治時代のパナマ (6)	最初のパナマを調べよう(2)	スペイン人が発見!	校外学習「パナマ・ピエホ」及び「パナマピエホ博物館」の見学を通し，400年前のパナマの様子を知る
	パナマピエホをまとめよう(1)	インカ ← 一番狭い場所 → 欧州	インカから欧州への富の通過点，中継地としてのパナマ・ピエホの興亡について理解する
	セントロペ行こう (2)		セントロに残るスペイン統治時代の建物を見学する
セントロをまとめよう(1)	スペイン風の街石置や教会	スペイン統治時代のセントロについて理解する	
【追求2】 フランスの運河建設時代のパナマ (3)	セントロペ行こう (2)	どうして? フランス? 失敗?	偉大なる失敗「フランスの運河建設」の歴史に触れる
	神の見捨てた地峡パナマ(1)	雨季の大雨	パナマ鉄道及びフランスの運河建設失敗について理解する
【追求3】 アメリカの運河建設 (8)	パナマ運河の建設1 (1)	神が見捨てた	アメリカの徹底した衛生対策について理解する
	パナマ運河の建設2 (1)	地峡 悪魔の住む	スエズ運河と対比しながら，開門式運河について理解する
	パナマ運河のしくみ (1)	水を制し，利用する	パナマ運河の構造や概観を理解する
	開門式運河のしくみ (1)	開門式 衛生対策	開門式運河の仕組みをCGや図を利用して理解する
	運河の水はどこから (1)	アメリカの成功	運河建設にあらゆる災いの根元となっていた雨を逆に利用していることを理解する
	運河に行ってみよう (2)	運河の安全=自らの生活	ミラ・フローレスロックの見学を通し，実感としてその構造や大きさを理解する
パナマの秘密 本時17/22(1)	自然条件	ハリケーン	ニカラグア運河計画の事実から，パナマの地理的な特色を知り，自分達の生活も，その恩恵を受けて暮らしていることを知る
		地震	パナマ運河を通して見えてくる日本とパナマの関係から，世界の相互依存関係を知り，協調・協力の必要性を認識する
【まとめ】 これからのパナマ運河 (4)	世界の十字路パナマ共和国 (1)	世界の十字路	これまでの学習を振り返り，自分の興味に合わせて題材を選び，パナマについての新聞を作る
	新聞を作ろう (3)	日本の船も沢山! パナマってこんな国	

(1) 本時の目標

パナマの地理的な特色について意欲的に調べることができる。
 数種類の地図から南北アメリカ大陸の中におけるパナマの特色を理解することができる。

(2) 展開

	児童の学習活動		教師の支援
問題の把握	1 前導起 2 建別レート 3 ニカラグア案 4 課題設定	ミラ・フローレスロックの見学 複数の案があった事を知る ニカラグア案がコストがかからない かった事をつかむ 課題を作る	 児童の認識と社会とのズレから課題を設定する
問題の追及	5 課題の予想 6 課題自求 中米火山帯地図 ・ 火山が少くない ・ 震原が少くない	予想を立てる 資料を選択し、調べる 中米ハリケーン地図 ・ ハリケーンの通り道からそれている、山が少くない	自由な発想で予想を立てさせる 興味にあわせて選択させる 中米立体地図 ・ いちばんせまい ・ 山が少くない 両国雨量比較 ・ パナマが多い
交流・問題解決	7 読み取った事の発表 	資料からわかった事を発表 ニカラグア約 330km パナマ約 80km	高い山は削るのが大変 閘門式運河は大量の雨が必要！
まとめ	8 資料の提示 9 生活をふりかえる 10 まとめ	ハリケーン被害や地震による被害について理解する 自分たちの生活との関わり 課題に対するまとめを行う	地図から読み取った内容を構造化する 運河の安全 = 生活の安全
	パナマは最もせまいだけでなく、地震も少なくハリケーンも来ない 安全な場所だから選ばれた。		
	11 視点の変換 12 自己評価	日本はパナマ運河の利用率で第 2 位であることを理解する 本時のまとめを行う	パナマでの生活だけでなく、日本においての生活にも関わりが深いことに目を向けさせる

5. おわりに

素直で優しすぎる程の子ども達、厳しくも温かい保護者、大使館を始めとする各種関係機関・日本人会の全面的な学校への協力。「ここががんばらなければ、どこががんばる」と言える程の環境。そして、限られたわずか 3 年の派遣期間、体力的・精神的に厳しくともがんばれたのはそれら全てが要因であった。「初めに子どもありき」その言葉通りに全てが進んでいくパナマ日本人学校。「在外」だからこそといえる高い教育要求や職員に求められる資質に応えようと、殆どの職員が私生活においても自らを律し、緊張感を持って生活していた。3 年間の任期を終え、それなりの責任を果たした安堵感とは裏腹に、込み上げてくる去りがたい思い。2003 年 3 月は涙、涙の日々であった。照りつける太陽の下で「いつか必ず会えるから」と行って別れた教え子達。「今度いつ帰ってくるんだ?」と涙を浮かべながらも笑顔で見送ってくれたパナマの友人達。パナマだからこそ過ごせた充実した 3 年間。それらは私にとって何にも代えがたい大きな財産である。このような機会を与えていただいた事に、改めて深く感謝申し上げているところである。